

# 御仏の教え

伝教大師は「私たち凡人は善い心を保ちたいと願いながらも、つついそのことを忘れ、欲望や嫉妬の悪心を起こし、友人や仲間・隣人を批判し悪態をつきがちになる。」だからこのことを確りと心に刻み、善い心を保つように修行をします、と仏様に誓われたのです。

では常に善心を持ち続けるためにはどうすれば良いのでしょうか。

- 1.法話を務めて聞き、仏教の教えを学ぶ
- 2.学んだ教えを心に持ち、常に自分の心を反省する
- 3.常に仏の名を唱え、周りの人を自分のことのように慈しむ（慈悲行）

と教えられています。

法話を聞き仏の教えを学ぶと、自分の正しい生き方・歩み方を知ることが出来ます。お釈迦様はこの事を法灯明・自灯明を言い、仏の教えを頼りとし、教えを学んだ自分自身を頼りとしなさい、と説かれました。

自分の生き方、歩み方に自信を持つことは大切ですが、ともすると自信過剰になったり、自我に固執しがちになります。なので常に自分を振り返り、自我に固執していないか、高慢になっていないかを反省しなければなりません。

教えを聞き、反省を繰り返しても確かな「信仰」がなければ絵に描いた餅です。常に仏様に手を合わせ、仏様のお徳を讃え、加護を感謝することによって、私たちは善心を忘れず、周りの人を慈しむことが出来るようになるのです。



## 1月 行事予定

元旦～5日	修正会 厄ばらい祈願祭
11日	稻荷社初縁日
17日	初観音ご縁日 ご縁箸のお年玉を授与します。
20日	権現祭 権現粥接待

## 2月 行事予定

3日	節分会 星祭り
11日	稻荷社ご縁日
11日	心経講座
15日	涅槃会
17日	観音様ご縁日
28日	懺悔護摩供養

# 正月の言葉

これ善心なり  
 発し難くして忘れ易きは  
 それ人身なり  
 得難くして移り易きは



伝教大師最澄の願文より

# 星祭り

2月3日午後1時より

豆まきは1時と法要  
終了後の2回です。  
福豆を拾って福を招  
きましょう。



星祭り祈禱料  
お一人800円



お釈迦様がおてくなりになった日。  
煩惱の宿る肉体から離れ、完全なお覺  
りに入られたことを涅槃と云います。  
当清水寺ではお釈迦様の鼻くそをお供  
えし、お釈迦様にあやかり、少しでも  
お覺りに近づくためにお釈迦様の鼻く  
そを頂戴しています。

## 2月15日 涅槃会

お釈迦様の鼻くそ接待  
参拝の方は自由に  
頂戴して下さい。



## 仏教入門 No.40



これまでは、一般の方々が原始仏典を読むことは難しい環境にあったのですが、近年では現代語訳の刊行が進んでいるため、手軽に読むことができるようになってきました。今月も、現代語訳された書籍が原始仏典のどの経に該当するかなども含めて紹介していきます。

先月でも解説していますが、最初に原始仏典の構成を復習しておきましょう。原始仏典は以下の5部から成り立っています。

- ①『ディーガニカーヤ』  
お経の中でも比較的長い34経によって組織されています。
- ②『マジマニカーヤ』  
お経の中で、長くも短くもない152経から成り立っています。
- ③『サンユッタニカーヤ』  
テーマ別に編集された約3000経から構成されています。経数については、研究者によって違いがあります。
- ④『アングッタラニカーヤ』  
1から11までの数字の順序に従って、お経を分類する方針から編纂されたものです。『アングッタラニカーヤ』の経数についても、数え方によって違いがあるようですが、2000を超えるお経が収められています。
- ⑤『クッタカニカーヤ』  
以下の15経を収録しています。  
(1)『クッタカパータ』(2)『ダンマパダ』  
(3)『ウダーナ』(4)『イディヴッタカ』  
(5)『スッタニパータ』(6)『ヴィマーナヴァットウ』(7)『ペータヴァットウ』

- (8)『テーラガーター』(9)『テーリーガーター』(10)『ジャータカ』(11)『ニッデーサ』(12)『パティ サンビダーマツガ』(13)『アパダーナ』(14)『ブッダヴァンサ』(15)『チャリヤーピタカ』

先月に引き続き、島根県の偉人である中村元(なかむらはじめ)先生の翻訳を取りあげていきます。先月は『ダンマパダ』という経典を翻訳した『ブッダの真理のことは・感興のことは』を紹介しましたが、今回は⑤クッタカニカーヤの第5番目に位置する(5)『スッタニパータ』を翻訳した『ブッダのことは』(岩波文庫)を紹介します。

詳しい説明はこの本の解説部分に譲りますが、構成を紹介しておきますと、5品(章)72経1149偈(詩)から成る経です。元来、『スッタニパータ』は5品それぞれが独立した経典で存在し、その中でも第4品と第5品の両品は特に古くに成立したと考えられています。その後、ある時に独立していた5品が一つの『スッタニパータ』としてまとめられました。

第4品については『義足経』の名で漢訳されていますが、『スッタニパータ』全体を通じた翻訳は見つかっておらず、おそらく中国・日本を始めとする東アジアの仏教には影響を与えなかった経典です。

しかし、中村先生は、この『スッタニパータ』に歴史的人物としてのゴータマ・ブッダや最初期の仏教を知る資料としてのみに価値をおいた訳ではなく、現代のアジア仏教圏にとっても重要な意義があることを認めて翻訳されたことが著されています。